科目名	地理総合	必履修	使用教材	新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院） 新地理資料 COMPLETE2024（帝国書院）
学年学級	1年 A,B,C,D,E,F,G	単位数 2	教科担当	長村、木内

期　間	授　業　計　画	到達目標
１学期	第１部　地図でとらえる現代世界 第１章　地理情報とシステム 地球上の位置と時差／地図の役割と種類 第２章　結び付きを深める現代世界 現代世界の国家と領域／グローバル化する世界 第２部　国際理解と国際協力 第１章　生活文化の多様性と国際理解 生活文化の多様性／世界の地形と人々の生活／世界の気候と人々の生活／世界の言語・宗教と人々の生活	第１部 第１章：地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解するとともに、情報の収集、読図、まとめる技能を身に付ける。 第２章：世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察する。 第２部 第１章：世界の人々の生活文化について、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察する。
２学期	歴史的背景と人々の生活／世界の産業と人々の生活 第２章　地球的課題と国際協力 複雑に絡み合う地球的課題 地球環境問題／資源・エネルギー問題／人口問題／食料問題／都市・居住問題	第２章：世界各地で見られる環境、資源・エネルギー、人口、食料、都市問題などの地球的課題について、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察するとともに、そこで見られる課題を主体的に解決しようとする態度を養う。
３学期	第３部　持続可能な地域づくりと私たち 第１章　自然環境と防災 日本の自然環境／地震・津波と防災／火山災害と防災／気象災害と防災／自然災害への備え 第２章　生活圏の調査と地域の展望 生活圏の調査と地域の展望	第３部 第１章：自然環境と防災について、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、そこで見られる課題を主体的に解決しようとする態度を養う。 第２章：生活圏の調査と地域の展望について、そこで見られる課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

・授業に集中して取り組み、積極的な発言を求める。現代世界の出来事を地理的視点から自らの問題として考える態度を養う。年４回の定期テストの他に、小テスト等を適宜行う。地理的課題についての調査・グループワーク・討論等を行う。

ルーブリック評価					
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力	協働力・粘り強く取り組む力
評価規準			地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。
A	立高生として目指すべき目標	レベル４	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け、応用することができる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論し応用することができる。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けている。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動をいつもとることができる。
B	立高生として求める標準	レベル３	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け、活用できる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論することができる。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けている。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動をしばしばとることができる。
		レベル２	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能をある程度身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論する力を概ね身に付けている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を概ね身に付けている。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動を時々とることができる。
C	立高生として初歩的段階	レベル１	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を理解している。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論する力を若干身に付けている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けようと努力している。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動を時々とることができる。
評価方法			・ペーパーテスト・ワークシート・行動観察	・ペーパーテスト・ワークシート・行動観察	・ペーパーテスト・ワークシート・行動観察
観点別評価			レベル１～４の４段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載	レベル１～４の４段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載	レベル１～４の４段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載

科目名	歴史総合	必履修	使用教材	現代の歴史総合　みる・読みとく・考える（山川出版社） 歴史総合用語解説（山川出版社）
学年学級	１学年 普通科・創造理数科	単位数　2	教科担当	塚原　佐藤

期　　間	授　　業　　計　　画	到達目標
１学期 中間考査まで	第１章　結びつく世界と日本の開国 18 世紀の東アジアにおける社会と経済 貿易が結んだ世界と日本 産業革命 中国の開港と日本の開国 第２章　国民国家とナショナリズム 市民革命 国民国家とナショナリズム	第１章　アジア諸国と欧米諸国の関係の変容のなかで、伝統と文化、交流について主体的に学習に取り組む。 第２章　国民国家や帝国主義の特徴、植民地とされた地域について学び、他国を尊重する態度を養う
１学期 期末考査まで	明治維新 日本の産業革命 帝国主義 変容する東アジアの国際秩序 日露戦争と東アジアの変動 近代化と現代的な諸課題	第２章　国民国家や帝国主義の特徴、植民地とされた地域について学び、他国を尊重する態度を養う
２学期 中間考査まで	第３章 総力戦と社会運動 ３ ヴェルサイユ体制とワシントン体制 ～第４章 経済危機と第二次世界大戦 ３　日中戦争への道	第３章　第一次世界大戦後の国際協調体制の成立と限界について理解を深め、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う 第４章　第二次世界大戦の惨禍や大戦下の人々の生活を通して、生命を尊ぶ態度を養う。
２学期 期末考査まで	第４章 経済危機と第二次世界大戦 ４　第二次世界大戦の展開 ～第５章 冷戦と世界経済 ２　東西両陣営と１９６０年代の社会	第５章　冷戦下の紛争地域と脱植民地化や地域連携について学び、他国を尊重し、国際社会の平和について考察できる。
学年末 考査まで	第５章 冷戦と世界経済 ３　軍拡競争から緊張緩和へ ～第６章 世界秩序の変容と日本 １０　現代と私たち	第６章　地域紛争が多発する現代における国際連合の役割と安全保障の問題などの事例を通して、正義と責任、および国際平和について考察できる。

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質･能力を育成することを目指す。

<table>
<tr><td colspan="4">普通科・創造理数　歴史総合のルーブリック</td></tr>
<tr><td colspan="3">評価の観点</td><td>知識・技能</td><td>思考力・判断力・表現力</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td colspan="3">立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養</td><td>知識・技能</td><td>論理的思考力</td><td>協働力・粘り強く取り組む力</td></tr>
<tr><td colspan="3">評価規準</td><td>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</td><td>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。</td><td>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。</td></tr>
<tr><td>A</td><td>立高生として目指すべき目標</td><td>レベル４</td><td>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け、応用することができる。</td><td>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論し応用できる。</td><td>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付け、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとし、それに基づいた行動をいつもとることができる。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">立高生として求める標準</td><td>レベル３</td><td>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け、活用できる。</td><td>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。</td><td>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付け、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとし、それに基づいた行動をしばしばとることができる。</td></tr>
<tr><td>レベル２</td><td>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能をある程度身に付けている。</td><td>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている力を概ね身に付けている。</td><td>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を概ね身に付けている。よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとし、それに基づいた行動を時々とることができる。</td></tr>
<tr><td>C</td><td>立高生として初歩的段階</td><td>レベル１</td><td>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を理解している。</td><td>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている力を少し身に付けている。</td><td>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けようと努力し、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとし、それに基づいた行動を時々とることができる。</td></tr>
<tr><td colspan="3">評価方法</td><td>・ペーパーテスト・ワークシート・行動観察</td><td>・ペーパーテスト・ワークシート・行動観察</td><td>・ペーパーテスト・ワークシート・行動観察</td></tr>
<tr><td colspan="3">観点別評価</td><td>レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A,B.C で記載</td><td>レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A,B.C で記載</td><td>レベル１～４の４段階で評価し、最終的に A,B.C で記載</td></tr>
</table>

科目名	日本史探究	選択必履修	使用教材	日本史探究（東京書籍） 新詳日本史（浜島書店） 日本史用語集（山川出版社）
学年学級	２年Ａ～Ｇ組	単位数	２	教科担当	武藤 正人

期間		授業計画	到達目標
１学期	中間考査まで	オリエンテーション 旧石器時代の日本 弥生文化と小国家の形成 大和王権と古墳文化 飛鳥の朝廷と文化 律令国家の形成と白鳳文化	日本列島における人類の生活のはじまりについて考察する。その際、自ら問いを表現し、史料に基づいて考察することで、主体的に歴史を探究する態度を育む。
	期末考査まで	平城京と天平文化 平安遷都と唐風文化 貴族社会と摂関政治 国風文化 朝廷世界の変容 武士の政治進出	奈良時代から中世のはじまりにかけての日本列島の歴史について探究する。その際、自ら問いを表現し、史料に基づいて考察することを通して、時代の転換点について説明できるようにする。
２学期	中間考査まで	鎌倉幕府の誕生 執権による政治 モンゴル襲来と社会の変貌 鎌倉の仏教と文化 南北朝の動乱と室町幕府の成立 倭寇と東アジア国際交流 室町時代の社会と経済活動	鎌倉幕府の誕生から室町時代にかけての日本列島の歴史について、世界の中の日本の視点をふまえて探究する。その際、修学旅行をふまえ、琉球と日本の関係について説明できるようにするとともに、琉球・沖縄についてプレゼンテーションを行う。
	期末考査まで	自立する戦国大名 室町文化 地球的世界の形成と日本 織豊政権による全国統一 桃山文化 江戸幕府と大名・朝廷	日本の近世社会について、中世からの転換となる画期をふまえ、その特徴を表現できるようにする。その際、基本的な史料などを用いて問い（課題）を追究し、説明できるようにする。
３学期	学年末考査まで	近世の身分と人々の暮らし アジアのなかの幕藩体制 武断政治から文治政治へ 幕藩体制下の社会の発展 享保の改革と経済の発展 近世社会の成熟と危機の始まり	日本の近世社会の展開と動揺について、世界の中の日本の視点をふまえて考察する。その際、史料をふまえて政策の意図や人々の暮らしを読み取り、時代の特徴を説明できるようにする。

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

２学年では、世界の中の日本という視点をふまえて、日本列島における人類のあゆみを総合的に考察する。その際、中学校社会科歴史的分野や１学年での歴史総合をふまえ、諸資料を活用し、問いを表現することを通して、知識・技能、思考力・判断力・表現力を高めることを目指す。予習を前提として授業が展開されるので、該当部分の教科書をよく読み、用語集等で確認をしておくことが求められる。主体的・対話的な態度で授業に取り組むこと。修学旅行の事前学習も適宜実施する。また、定期考査においては基礎知識の正確な理解、それをふまえた論述も出題される。

<table>
<tr><td colspan="5">ルーブリック評価</td></tr>
<tr><td colspan="3">評価の観点</td><td>知識・技能</td><td>思考力・判断力・表現力</td><td>主体的に学習に取り組む態度</td></tr>
<tr><td colspan="3">立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養</td><td>知識・技能</td><td>論理的思考力
批判的に事象を読み解く力</td><td>社会に参画しようとする力
粘り強く学習に取り組む力</td></tr>
<tr><td colspan="3">評価規準</td><td>日本史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けている</td><td>歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を身に付けている。
歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察できている</td><td>民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けている。</td></tr>
<tr><td>A</td><td>立高生として目指すべき目標</td><td>4</td><td>日本史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を十分に身に付けている</td><td>歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を十分に身に付けている。
歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について十分に考察できている</td><td>民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を十分に身に付けている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">B</td><td rowspan="2">立高生として求める標準</td><td>3</td><td>日本史で用いられる語句の意味や定義を理解する力をほぼ身に付けている</td><td>歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をほぼ身に付けている。
歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についておおよそ考察できている</td><td>民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をほぼ身に付けている。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>日本史で用いられる語句の意味や定義を理解する力をある程度身に付けている</td><td>歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をある程度身に付けている。
歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についてある程度考察できている</td><td>民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をある程度身に付けている。</td></tr>
<tr><td>C</td><td>立高生として初歩的段階</td><td>1</td><td>日本史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けようとしている。</td><td>歴史的事項の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成しようとしている。
歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察しようとしている</td><td>民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けようとしている</td></tr>
<tr><td colspan="3">評価方法</td><td>定期テスト・振り返り学習・小テストなど</td><td>定期テスト、小テストなど</td><td>定期テスト、小テストなど</td></tr>
<tr><td colspan="3">観点別評価</td><td>4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する</td><td>4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する</td><td>4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する</td></tr>
</table>

科目名	世界史探究	必履修 ~~学校必履修~~ ~~選択必履修~~	使用教材	山川出版社（詳説世界史） 山川出版社（世界史用語集） 浜島書店（アカデミア世界史）
学年学級	2年A～G組	単位数	2	教科担当	津野田・佐藤・塚原

期間		授業計画	到達目標
1学期	中間考査まで	第１章　文明の成立と古代文明の特質 ・文明の誕生 ・古代オリエント ・南アジアの古代文明 ・中国の古代文明 ・南北アメリカ文明	人類の誕生と古代文明の成立と発展を、各文明圏を対比しながら考察する。その際、基本的な史料などを用いることで、生徒が主体的に歴史像を構築できるよう配慮する。
	期末考査まで	第２章　中央ユーラシアと東アジア世界 ・草原とオアシスの世界 ・秦漢帝国 ・中国の動乱と変容 ・東アジア文化圏の形成 第３章　南アジア世界と東南アジア世界の展開 ・仏教の成立と統一国家の形成 ・インド古典文化の形成 ・東南アジア世界の形成と展開	中央ユーラシア世界を中心に、遊牧世界と農耕世界の関係性の中から、アジア古代世界の形成について考察する。その際、基本的な史料などを用いることで、生徒が主体的に歴史像を構築できるよう配慮する。
2学期	中間考査まで	第４章　西アジアと地中海周辺の国家形成 ・イラン文明 ・ギリシア人の都市国家 ・ローマと地中海世界 ・キリスト教の成立と発展	西アジアを含めた地中海世界の形成と展開過程について、その特徴を宗教と関連させながら考察する。その際、基本的な史料などを用いることで、生徒が主体的に歴史像を構築できるよう配慮する。
	期末考査まで	第５章　イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 ・アラブの大征服とイスラーム政権の成立 ・ヨーロッパ世界の形成 第６章　イスラーム教の伝播と西アジアの動向 ・イスラーム教の伝播 ・西アジアの動向	イスラーム教の成立と発展、および世界史への影響について、キリスト教世界の成立と対比しながら考察する。その際、基本的な史料などを用いることで、生徒が主体的に歴史像を構築できるよう配慮する。
3学期	学年末考査まで	第７章　ヨーロッパ世界の変容と展開 ・西ヨーロッパの封建社会と展開 ・東ヨーロッパ世界の展開 ・西ヨーロッパ世界の変容 ・西ヨーロッパの中世文化	中世ヨーロッパ世界の成立と展開について、東西の対立と協調という側面から考察する。その際、基本的な史料などを用いることで、生徒が主体的に歴史像を構築できるよう配慮する。

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

２学年では、人類の誕生から古代世界の形成、そして中世への展開過程について学習する。歴史をただ覚えるのではなく、現代に繋がる過程として理解し、今日の世の中について一人ひとりが考察するきっかけになるよう授業展開していく。発問に対する応答や、討論などが評価の規準となろう。主体的・能動的な態度で授業に取り組むこと。また、定期考査においては世界史の基礎知識の正確な理解、それを踏まえた世界史の流れを適切な文章として自ら表現できるかどうかも重要な評価規準となる。授業内で要約・振り返りを行い、探究的内容の理解を深める。

ルーブリック評価					
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力 批判的に事象を読み解く力	社会に参画しようとする力 粘り強く学習に取り組む力
評価規準			世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けている。
A	立高生として目指すべき目標	4	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を十分に身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を十分に身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について十分に考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を十分に身に付けている。
B	立高生として求める標準	3	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力をほぼ身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をほぼ身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についておおよそ考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をほぼ身に付けている。
		2	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力をある程度身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をある程度身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についてある程度考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をある程度身に付けている。
C	立高生として初歩的段階	1	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けようとしている。	歴史的事項の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成しようとしている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察しようとしている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けようとしている
評価方法			定期テスト・振り返り学習・ 小テストなど	定期テスト 共有シート　振り返り レポートなど	振り返り　ワークシート レポートなど
観点別評価			4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する

科目名	公共	必履修 ~~学校必履修~~ ~~選択必履修~~	使用教材	公共（実教出版） 最新図説　公共（浜島書店）
学年学級	２年全クラス	単位数　２	教科担当	山田駿　野口英法

期間		授業計画	到達目標
１学期	中間考査まで	第１部　公共の扉 倫理分野 第１章　社会を作る私たち 第２章　人間としてよく生きる 第３章　他者とともに生きる 第４章　民主社会の倫理	・人間は，個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに，対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること，伝統や文化，先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して，自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解させる。
	期末考査まで	政治分野 第５章　民主国家における基本原理 第２部　よりよい社会の形成に参加する私たち 第１章　日本国憲法の基本的性格 第２章　日本の政治機構と政治参加	・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して，人間の尊厳と平等，協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが，公共的な空間を作る上で必要であることについて理解させる。 ・個人の尊重，民主主義，法の支配など，公共的な空間における基本的原理について理解させる。
２学期	中間考査まで	経済分野 第１章　現代の経済社会 第２章　日本経済の特質と国民生活	・雇用と労働問題，財政及び租税の役割，少子高齢社会における社会保障の充実・安定化，市場経済の機能と限界，金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に，公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること，市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解させる。
	期末考査まで	国際分野 第１章　国際政治の動向と課題 第２章　国際経済の動向と課題	・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現させる。
３学期	学年末考査まで	第３部　持続可能な社会づくりの主体となる私たち	この科目のまとめとして位置付け，社会的な見方・考え方を総合的に働かせ，第１部で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用するとともに，第１部及び第２部で扱った課題などへの関心を一層高める

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

毎時間他者との意見共有と振り返りを行い、知識の定着のみならず、思考力や表現力を高めることを目指します。また、政治分野、経済分野においては中学校までの既習事項も踏まえながら、授業内での議論を行います。民主社会の形成者として積極的に社会に参画する態度を養っていきましょう。特に授業内では自らの意見を述べるだけでなく、多くの人の意見を聞く機会もあると思います。他者の意見も尊重し、考える力を養っていきましょう。

ルーブリック評価					
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力 批判的に事象を読み解く力	社会に参画しようとする力 粘り強く学習に取り組む力
評価規準			公共で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けている	現代社会の諸課題の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を身に付けている。 現代社会の諸問題の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察できている	民主社会を構成する市民として、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けている。
A	立高生として目指すべき目標	4	公共で用いられる語句の意味や定義を理解する力を十分に身に付けている	現代社会の諸課題の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を十分に身に付けている。 現代社会の諸問題の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について十分に考察できている	民主社会を構成する市民として、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を十分に身に付けている。
B	立高生として求める標準	3	公共で用いられる語句の意味や定義を理解する力をほぼ身に付けている	現代社会の諸課題の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をほぼ身に付けている。 現代社会の諸問題の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についておおよそ考察できている	民主社会を構成する市民として、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をほぼ身に付けている。
		2	公共で用いられる語句の意味や定義を理解する力をある程度身に付けている	現代社会の諸課題の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をある程度身に付けている。 現代社会の諸問題の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についてある程度考察できている	民主社会を構成する市民として、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をある程度身に付けている。
C	立高生として初歩的段階	1	公共で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けようとしている。	現代社会の諸課題の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成しようとしている。 現代社会の諸問題の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察しようとしている	民主社会を構成する市民として、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けようとしている
評価方法			定期テスト・振り返り学習	定期テスト 共有シート　振り返り 中間課題　レポート	振り返り　ワークシート 中間課題
観点別評価			4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する

科目名	地理探究（系統地理）	必履修 自由選択	使用 教材	新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院） 新詳地理資料 2022（帝国書院） ﾃﾞｰﾀﾌﾞｯｸｵﾌﾞｻﾞﾜｰﾙﾄﾞ 2024（二宮書店） 地理の整理と演習 2024（二宮書店）
学年 学級	３年文系（必履修） ３年理系（自由選択）	単位数	２	教科 担当	長村嘉浩

期　間		授　業　計　画	到達目標
１学期	中間考査まで	第１章　自然環境 第２章　資源と産業	地形、気候、生態系などの諸事象について、その空間的な規則性や傾向性、地球環境問題を理解し、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察する。
	期末考査まで	第２章　資源と産業	資源・エネルギーや農業、工業などの諸事象について、その空間的規則性や傾向性、資源・食料問題を理解し、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察する。
２学期	中間考査まで	第３章　交通・通信と観光・貿易 第４章　人口、村落、都市	交通・通信、観光・貿易などの諸事象について、その空間的規則性や傾向性、諸問題を理解し、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察する。 人口、村落・都市などの諸事象について、その空間的規則性や傾向性、人口・都市問題等を理解し、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察する。
	期末考査まで	第５章　生活文化、民族・宗教	生活文化、民族・宗教などの諸事象について、その空間的規則性や傾向性、民族問題等を理解し、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察する。
３学期	学年末考査まで	共通テスト対策等の演習	共通テスト・国公立２次・私大の過去問や対策問題を解けるようにする。

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

授業中に集中して取り組む。大学受験対象者が中心の授業であるため地理事象を理解するとともに、地図、統計、図表などを読み取る力をつけるなど、入試問題に対応できるようにする。

ルーブリック評価					
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力	協働力・粘り強く取り組む力
評価規準			地理に関わる諸事象に関して、自然環境、資源と産業、交通・通信と観光・貿易、人口、村落・都市、生活文化、民族・宗教などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。
A	立高生として目指すべき目標	4	地理に関わる諸事象に関して、自然環境、資源と産業、交通・通信と観光・貿易、人口、村落・都市、生活文化、民族・宗教などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け、応用することができる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを基に議論し応用することができる。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けている。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動をいつもとることができる。
B	立高生として求める標準	3	地理に関わる諸事象に関して、自然環境、資源と産業、交通・通信と観光・貿易、人口、村落・都市、生活文化、民族・宗教などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け、活用できる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを基に議論することができる。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けている。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動をしばしばとることができる。
		2	地理に関わる諸事象に関して、自然環境、資源と産業、交通・通信と観光・貿易、人口、村落・都市、生活文化、民族・宗教などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能をある程度身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを基に議論する力を概ね身に付けている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を概ね身に付けている。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動を時々とることができる。
C	立高生として初歩的段階	1	地理に関わる諸事象に関して、自然環境、資源と産業、交通・通信と観光・貿易、人口、村落・都市、生活文化、民族・宗教などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を理解している。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを基に議論する力を若干身に付けている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けようと努力している。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動を時々とることができる。
評価方法			ペーパーテスト、ワークシート、行動観察	ペーパーテスト、ワークシート、行動観察	ペーパーテスト、ワークシート、行動観察
観点別評価			4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する

科目名	地理探究(地誌)	自由選択	使用教材	新詳地理探究（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院） 新詳地理資料 2022（帝国書院） ﾃﾞｰﾀﾌﾞｯｸｵﾌﾞｻﾞﾜｰﾙﾄﾞ 2024（二宮書店） 地理の整理と演習 2024（二宮書店）
学年学級	３年文系(自由選択)	単位数	２	教科担当	長村嘉浩

期間		授業計画	到達目標
１学期	中間考査まで	１節　中国 ２節　朝鮮半島 ３節　東南アジア	東アジア、東南アジアにみられる地域的特色や地球的課題、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に理解するするとともに、これらのことを多面的・多角的に考察する。
	期末考査まで	４節　インド ５節　西アジアと中央アジア ６節　北アフリカとサハラ以南アフリカ	南アジア、西アジア、中央アジア、アフリカにみられる地域的特色や地球的課題、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に理解するするとともに、これらのことを多面的・多角的に考察する。
２学期	中間考査まで	７節　ＥＵ諸国 ８節　ロシア ９節　アメリカ合衆国	ヨーロッパ、ロシア、アングロアメリカにみられる地域的特色や地球的課題、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に理解するするとともに、これらのことを多面的・多角的に考察する。
	期末考査まで	１０節　ラテンアメリカ １１節　オセアニア １２節　日本	ラテンアメリカ、オセアニア、日本にみられる地域的特色や地球的課題、地域の結び付き、構造や変容などを地誌的に理解するするとともに、これらのことを多面的・多角的に考察する。
３学期	学年末考査まで	共通テスト対策等の演習	共通テスト・国公立２次・私大の過去問や対策問題を解けるようにする。

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

授業中に集中して取り組む。大学受験対象者が中心の授業であるため地理事象を理解するとともに、地図、統計、図表などを読み取る力をつけるなど、入試問題に対応できるようにする。

ルーブリック評価					
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力	協働力・粘り強く取り組む力
評価規準			いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域を地誌的に理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。
A	立高生として目指すべき目標	4	いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域を地誌的に理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け、応用することができる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを基に議論し応用することができる。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けている。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動をいつもとることができる。
B	立高生として求める標準	3	いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域を地誌的に理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付け、活用できる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを基に議論することができる。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けている。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動をしばしばとることができる。
		2	いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域を地誌的に理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能をある程度身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを基に議論する力を概ね身に付けている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を概ね身に付けている。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動を時々とることができる。
C	立高生として初歩的段階	1	いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域を地誌的に理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を理解している。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、それらを基に議論する力を若干身に付けている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、基本的な姿勢を身に付けようと努力している。そして、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとし、それに基づいた行動を時々とることができる。
評価方法			ペーパーテスト、ワークシート、行動観察	ペーパーテスト、ワークシート、行動観察	ペーパーテスト、ワークシート、行動観察
観点別評価			4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する

科目名	日本史探究α	~~必履修~~ 学校必履修 ~~選択必履修~~	使用教材	日本史探求（東京書籍）、 新詳日本史（浜島書店）、新詳述日本史史料（実教出版）実力をつける日本史 100 題（Ｚ会）
学年学級	３年　必選	単位数　４	教科担当	大野

期間		授業計画	到達目標
１学期	中間考査まで	第１章　日本文化のあけぼの １文化の始まり、２農耕社会の成立 ３古墳とヤマト政権 第２章　律令国家の形成 １飛鳥の朝廷、２律令国家への道 ３平城京の時代	日本文化のあけぼのから縄文・弥生文化を経て国家の形成が進められ、飛鳥地方を中心とするヤマト政権による国土の統一と、古代律令国家の成立から、繁栄に至る流れを理解する。
	期末考査まで	第３章　貴族政治 １摂関政治　　２律令国家の形成 ３地方政治の展開と武士 第４章　中世社会の成立 １院政と平氏の台頭、２鎌倉幕府の成立 ３武士の社会	律令体制における中央・地方政治の展開と衰退。また、武士団の台頭による公家政権から武家政権成立への政治的流れと、武家社会の特質を理解する。
２学期	中間考査まで	４蒙古襲来と幕府の衰退 第５章　武家社会の成長 １室町幕府の成立 ２幕府の衰退と庶民の台頭 ４戦国大名の登場	中世の武家政権を把握すると共に、惣村や町衆といった庶民の台頭及び、応仁の乱以降の幕府体制衰退に伴う、全国的な争乱を理解する。
	期末考査まで	第６章　幕藩体制の確立 １織豊政権 ２幕藩体制の成立 第７章　幕藩体制の展開 １幕政の安定 ２経済の発展	信長・秀吉の統一事業が幕藩体制の確立に至ることを把握する。また、鎖国体制や身分制の確立及び江戸初期における産業・経済の発展を理解する。
３学期	学年末考査まで	・共通テスト対策 ・論述指導 ・その他講習	他教科とのバランスを考慮しつつ、共通テスト・二次試験のための論述対策・私大対策を実施する。

学習のポイント

・日本文化のあけぼのから幕藩体制の動揺に至るまでの、前近代史の大きな枠組みと歴史の流れを理解させるために、特に政治史を重点的に学習する。

・ワークシートを配布し予習を促し、確認テスト・課題提出などを適時に実施し家庭学習を習慣化させる。

ルーブリック評価					
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力 批判的に事象を読み解く力	社会に参画しようとする力 粘り強く学習に取り組む力
評価規準			日本史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けている。
A	立高生として目指すべき目標	4	日本史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を十分に身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を十分に身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について十分に考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を十分に身に付けている。
B	立高生として求める標準	3	日本史で用いられる語句の意味や定義を理解する力をほぼ身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をほぼ身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についておおよそ考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をほぼ身に付けている。
		2	日本史で用いられる語句の意味や定義を理解する力をある程度身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をある程度身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についてある程度考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をある程度身に付けている。
C	立高生として初歩的段階	1	日本史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けようとしている。	歴史的事項の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成しようとしている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察しようとしている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けようとしている
評価方法			定期テスト・振り返り学習・ 小テストなど	定期テスト 小論述プリントなど	定期テスト、小論述プリントなど
観点別評価			4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する

科目名	日本史探究β	~~必履修~~ 学校必履修 ~~選択必履修~~	使用教材	日本史探求（東京書籍） 新詳述日本史史料集成（実教出版） 新詳日本史（浜島書店） 日本史用語集（山川出版社）
学年学級	３年　必選	単位数　３	教科担当	大野

期間		授業計画	到達目標
１学期	中間考査まで	二つの世界大戦と日本 １　第一次世界大戦と日本 ２　ワシントン体制 ３　市民生活の変容	第一次世界大戦前後における日本国内外の政治・経済の特徴を理解する。
	期末考査まで	４恐慌の時代 ５軍部の台頭 ６第二次世界大戦 占領下の日本 １占領と日本 ２冷戦の開始と講和	第二次世界大戦に至る昭和期の政治・経済・外交についてその変遷、特徴を理解する。占領期から国際社会復帰までの国内情勢について理解する。
２学期	中間考査まで	高度成長の時代 １　55年体制 ２　高度成長 近代文化 １　幕末の文化、　２　明治文化、 ３　大衆文化　　４　戦中文化、 原始文化 １　旧石器・縄文・弥生文化、２　古墳文化、	高度成長期の国内政治・経済を中心にその変遷及び特徴を理解する。 開国にともなう欧米文化の流入と摂取、及び近代国家形成期における国際社会との関連の中で成立した、近代文化の特徴と変遷を理解する。日本文化のあけぼのから、古墳文化までを理解する。
	期末考査まで	古代文化 １　飛鳥文化、　２　白鳳文化、 ３　天平文化、　４　弘仁・貞観文化、 ５　国風文化中世文化 １　院政期の文化、２　鎌倉文化、 ３　室町文化（北山・東山・戦国） 近世文化 １　桃山文化　２　寛永文化　３　元禄文化、 ４　宝暦・天明期文化　５　化政文化	古代国家の精神的基盤である仏教文化の成立から皇族・貴族主体の国風・院政期文化、日本最初の武家文化の成立及び、室町期における庶民文化の台頭、現代日本文化の源流としての中世文化の特徴と変遷を理解する。 幕藩体制の成立により、安定した世相を背景に、都市・経済の発達にともない、豪商・町人が文化の担い手となり町人文化が形成され、学問・思想などが発達した近世文化の特徴と変遷を理解する。
３学期	学年末考査まで	・共通テスト対策 ・論述指導 ・その他講習	他教科とのバランスを考慮しつつ、受験対策の演習を通じて知識を確実なものとする。

学習のポイント

・昭和史を中心に文化史・地域史も取り入れた学習を行う。入試問題演習も行う。

・確認テストを実施し、復習を重視し、家庭学習を習慣化させる。

ルーブリック評価					
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力 批判的に事象を読み解く力	社会に参画しようとする力 粘り強く学習に取り組む力
評価規準			日本史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けている。
A	高生として目指すべき目標 立	4	日本史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を十分に身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を十分に身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について十分に考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を十分に身に付けている。
B	高生として求める標準 立	3	日本史で用いられる語句の意味や定義を理解する力をほぼ身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をほぼ身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についておおよそ考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をほぼ身に付けている。
		2	日本史で用いられる語句の意味や定義を理解する力をある程度身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をある程度身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についてある程度考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をある程度身に付けている。
C	高生として初歩的段階 立	1	日本史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けようとしている。	歴史的事項の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成しようとしている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察しようとしている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けようとしている
評価方法			定期テスト・振り返り学習・ 小テストなど	定期テスト 小論述プリントなど	定期テスト、小論述プリントなど
観点別評価			4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する

科目名	世界史α	必履修 ~~学校必履修~~ ~~選択必履修~~	使用教材	山川出版社　（詳説世界史） 山川出版社　（用語集） 浜島書店　　（アカデミア世界史）
学年学級	３年　必選	単位数　４	教科担当	津野田

期間		授業計画	到達目標
１学期	中間考査まで	**東アジア世界の展開とモンゴル帝国** ・宋と契丹、西夏、金 ・大モンゴル帝国 **大交易の時代** ・明とヨーロッパ諸国の海洋進出 ・アメリカ大陸の変容	東アジアにおける「ユーラシア型国家」の展開と宋について、日本の動向も含めて理解し、大モンゴル帝国との関係について考察する。アジア・アフリカ・ヨーロッパ・アメリカの諸大陸が、歴史上はじめてつながる歴史的背景を理解して表現する。
	期末考査まで	**アジアの近世帝国** ・オスマン帝国とサファヴィー朝、ムガル帝国 ・清の発展 **近世ヨーロッパ社会の展開** ・ルネサンスと宗教改革 ・主権国家体制の成立 ・科学革命と啓蒙思想	アジアの近世帝国の歴史的特徴と展開過程を、中世までの歴史を踏まえて考察する。いっぽう、それとは異なる近世国家を形成したヨーロッパの社会経済的状況について、思想面に着目しながら検討し、表現する。
２学期	中間考査まで	**二重革命の時代** ・産業革命 ・アメリカ独立革命とフランス革命 ・ラテンアメリカの独立と課題 **ヨーロッパにおける国民国家建設** ・ウィーン体制とヨーロッパ諸国の国民国家建設 ・アメリカ合衆国の発展と 19 世紀の欧米文化	産業革命とフランス革命という大きな変革が、ヨーロッパと世界に与えた影響について考察する。また、ラテンアメリカ社会の形成について理解すると同時に、ヨーロッパにおける国民国家形成の特徴と功罪両面を検討する。また、これらの背景に存在する科学と思想的な側面について考え、表現する。
	期末考査まで	**アジア諸地域の変動** ・西アジア、南アジア、東南アジア、東アジアの動揺と近代化への模索 **帝国主義とアジアの民族運動** ・第 2 次産業革命と列強の世界分割 ・アジアの民族運動	欧米諸国の進出にともなうアジア諸地域の対応について考察する。第 2 次産業革命の進展による欧米諸国の帝国主義化と世界分割について理解する。さらに、アジアにおける民族運動の実際について検討し、表現する。
３学期	学年末考査まで	・共通テスト対策 ・論述指導 ・その他講習	他教科とのバランスを考慮しつつ、共通テスト・二次試験のための論述対策・私大対策を実施する。

２学年では教科書第１章～７章について学習した。必選世界史では近世から現代の歴史を扱う。受験を念頭に置いた内容量が豊富な授業を展開するが、授業では必要なことを必ずメモする習慣をつけて欲しい。また、周辺の生徒どうしの対話を通じて、世界史の授業内容を主体的に学んでいくことを期待する。能動的に世界史を学び、歴史を通じて現在の世界に目を向け、自分の頭で歴史について考え、表現できるようになろう。

ルーブリック評価					
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力 批判的に事象を読み解く力	社会に参画しようとする力 粘り強く学習に取り組む力
評価規準			世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けている。
A	立高生として目指すべき目標	4	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を十分に身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を十分に身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について十分に考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を十分に身に付けている。
B	立高生として求める標準	3	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力をほぼ身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をほぼ身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についておおよそ考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をほぼ身に付けている。
		2	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力をある程度身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をある程度身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についてある程度考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をある程度身に付けている。
C	立高生として初歩的段階	1	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けようとしている。	歴史的事項の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成しようとしている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察しようとしている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けようとしている
評価方法			定期テスト・振り返り学習・ 小テストなど	定期テスト 小論述プリントなど	定期テスト、小論述プリントなど
観点別評価			4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する

科目名	世界史β	必履修 ~~学校必履修~~ ~~選択必履修~~	使用教材	山川出版社　（詳説世界史） 山川出版社　（用語集） 浜島書店　　（アカデミア世界史）
学年学級	３年　自選	単位数　３	教科担当	津野田

期間		授業計画	到達目標
１学期	中間考査まで	**帝国主義とアジアの民族運動** ・帝国主義と列強の展開 ・世界分割と列強対立 **二つの世界大戦** ・第一次世界大戦とロシア革命 ・アジア諸国の改革と民族運動	ヨーロッパを中心とした「世界」が形成されていく過程を把握するとともに、アジア・アフリカなどの動向にも注目する。第一次世界大戦が世界に与えた衝撃を考察し、現代世界との関係を表現する。
	期末考査まで	**二つの世界大戦** ・ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ・アジア、アフリカ地域の民族運動 ・世界恐慌とファシズム諸国の侵略 ・第二次世界大戦	戦間期の世界について、地域ごとの特徴を踏まえて考察する。第二次世界大戦にいたる歴史的脈絡と、その影響について理解し自分の考えを表現する。
２学期	中間考査まで	**冷戦と第三世界の台頭** ・戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 ・米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 ・第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り ・石油危機と世界経済の再編	第二次世界大戦終結後の冷戦構造について理解し、現代に直結する諸問題について考察する。1970 年代の歴史的意義について、事実をもととして考え、表現する。
	期末考査まで	**現在の世界** ・社会主義世界の変容とグローバリゼーションの進展 ・途上国の民主化と独裁政権の動揺 ・地域紛争の激化と深刻化する貧困 ・現代文明の諸相	グローバル化とは何か、という問いについて、歴史的な事実を踏まえて考察する。また、「現代」が抱える様々な問題のきっかけについて理解し、表現する。
３学期	学年末考査まで	・共通テスト対策 ・論述指導 ・その他講習	他教科とのバランスを考慮しつつ、受験対策の演習を通じて知識を確実なものとする。

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

歴史をただ覚えるのではなく、現代に繋がる過程として理解し、今日の世の中について一人ひとりが考察するきっかけになるよう授業展開していく。発問に対する応答や討論なども評価の規準になるため、主体的・能動的な態度で授業に取り組むことが求められる。また、定期考査においては世界史の基礎知識の正確な理解、それを踏まえた世界史の流れを適切な文章として自ら表現できるかどうかも重要な評価規準となる。授業内で要約・振り返りを行い、探究的内容の理解を深める。

ルーブリック評価					
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力 批判的に事象を読み解く力	社会に参画しようとする力 粘り強く学習に取り組む力
評価規準			世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けている。
A	立高生として目指すべき目標	4	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を十分に身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力を十分に身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について十分に考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を十分に身に付けている。
B	立高生として求める標準	3	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力をほぼ身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をほぼ身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についておおよそ考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をほぼ身に付けている。
		2	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力をある程度身に付けている	歴史的事項の解釈に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成をする力をある程度身に付けている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法についてある程度考察できている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度をある程度身に付けている。
C	立高生として初歩的段階	1	世界史で用いられる語句の意味や定義を理解する力を身に付けようとしている。	歴史的事項の解決に向けて、自分の意見や他者の意見を聞きながら合意形成しようとしている。 歴史的事項の解決に向けて、問題の本質を理解し解決の方法について考察しようとしている	民主社会を構成する市民として、歴史的な知識や思考法を踏まえて、積極的に社会の諸問題の解決に向けて考察しようとする態度を身に付けようとしている
評価方法			定期テスト・振り返り学習・ 小テストなど	定期テスト 小論述プリントなど	定期テスト、小論述プリントなど
観点別評価			4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する

科目名	倫理	選択必修 自由選択	使用 教材	倫理（東京書籍） 最新倫理資料集テオーリア（第一学習社）
学年 学級	3 年	単位数	2	教科 担当	山田　駿

期　間		授　業　計　画	到達目標
1 学 期	中間考査 まで	第１編　現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方 第１章　人間の心のあり方 １節 人間とは何か ２節 人間の心の働き 第２章　さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ １節　哲学すること ２節　ギリシャの思想 ３節 宗教と社会	・「公共」の学習を振り返りながら，青年期の自己形成について考え直し，現代社会で生きていく上で，青年期に求められること、認知活動と知覚，学習の法則，記憶のプロセス，推論と問題解決について理解し考えることが出来る。 ・人間が考えることや、宗教の持つ意義を理解させ、それをもとに善く生きるとはどのような生き方かを考える。生きることについての価値を考える
	期末考査 まで	４節　キリスト教 ５節　イスラーム ６節　仏教 ７節　中国の思想 ８節　芸術	・人間が考えることや、宗教の持つ意義を理解させ、それをもとに善く生きるとはどのような生き方かを考える。生きることについての価値を考える 美を求める心や，それが人生を豊かにするものであること，芸術とは何か，芸術作品と鑑賞者の関係について，芸術家の考え方や生き方，作品を手がかりにして多面的・多角的に考察する
2 学 期	中間考査 まで	第３章　さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ １節　近代と人間尊重の精神 ２節　近代思想の展開 ３節　人格の尊厳と人倫の思想 ４節　社会変革の思想 ５節　理性への疑念	・近代の西洋思想について、経験論と合理論の特徴および科学的な思考との関連について理解する ・社会契約説と民主社会成立の関連について理解する ・社会主義や実存主義等、近現代の思想が登場した背景およびその内容について理解する
	期末考査 まで	６節　人間観・言語観の問いなおし ７節　他者・自然とのかかわり 第４章　国際社会に生きる日本人としての自覚 １節　日本人の精神風土 ２節　仏教と日本人の思想形成 ３節　儒教と日本人の思想形成 ４節　国学の思想	「他者」とはどのような存在か，また，私たちはどのように「他者」とかかわるべきか，という観点から，レヴィナス，ベンヤミン，アーレント，フランクフルト学派，ウィトゲンシュタインの思想について理解し比較しながら，多面的・多角的に考察する
3 学 期	学年末考査 まで	５節　庶民の思想 ６節　西洋思想と日本人の近代化 ７節　国際社会に生きる日本人の自覚 第２編　現代の諸課題と倫理 １節　生命　２節　自然　３節　科学技術 ４節　福祉　５節　文化と宗教　６節　戦争と平和	・日本の風土や文化的伝統と日本人独自の価値観との関連性について理解する ・環境破壊・生命倫理など現代の課題について理解する （第４章に関しては夏休み等に必要に応じて講習等を実施することもある）

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

倫理の授業は共通テスト受験にも対応できるよう進めていきます。受験生は多くの科目を勉強するので、倫理は授業内で理解すること、考えることを意識しましょう。特に授業内では自らの意見を述べるだけでなく、多くの人の意見を聞く機会もあると思います。他者の意見も尊重し、考える力を養っていきましょう。

ルーブリック評価					
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力 批判的に事象を読み解く力	社会に参画しようとする力 粘り強く学習に取り組む力
評価規準			〇現代の倫理的課題を捉え，他者と共によりよく生きる人間のあり方について自己の確立の課題として考察し，選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解している。 〇諸資料から，現代に生きる倫理的主体として活動するために必要となる情報をまとめている。	〇他者と共によりよく生きる自己の確立について広く課題を発見し，人間の存在や価値，現代の倫理的課題などについて多面的・多角的に考察し，思索を深めている。 〇良識ある公民としての広い視野に立つことで，主体的かつ公正な判断をしている。	〇現代の倫理的課題についての探究的な態度を身に付け，他者と共によりよく生きる在り方を主体的に探究しようとしている。 〇知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強い取り組みを行おうとしている。また，そのような取り組みの中で，自らの学習を調整しようとしている。
A	立高生として目指すべき目標	4	〇現代の倫理的課題を捉え，他者と共によりよく生きる人間のあり方について自己の確立の課題として考察し，選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について深く理解している。 諸資料から，現代に生きる倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	〇他者と共によりよく生きる自己の確立について広く課題を発見し，人間の存在や価値，現代の倫理的課題などについて多面的・多角的に考察し，思索を十分に深めている。 〇良識ある公民としての広い視野に立ち，主体的かつ公正な判断をしている	〇現代の倫理的課題についての探究的な態度を身に付け，他者と共によりよく生きる在り方を主体的に深く探究しようとしている。 〇知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強い取り組みを十分に行おうとしている。
B	立高生として求める標準	3	〇現代の倫理的課題を捉え，他者と共によりよく生きる人間のあり方について自己の確立の課題として考察し，選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について適切に理解している。 〇諸資料から，現代に生きる倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切にまとめている。	〇他者と共によりよく生きる自己の確立について広く課題を発見し，人間の存在や価値，現代の倫理的課題などについて多面的・多角的に考察し，思索を深めている。 〇良識ある公民としての広い視野に立つことで，主体的かつ公正な判断をしようとしている。	〇現代の倫理的課題についての探究的な態度を身に付け，他者と共によりよく生きる在り方を主体的に探究しようとしている。 〇知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強い取り組みを行おうとしている。
		2	〇現代の倫理的課題を捉え，他者と共によりよく生きる人間のあり方について自己の確立の課題として考察し，選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しようとしている。 〇諸資料から，現代に生きる倫理的主体として活動するために必要となる情報をまとめようとしている。	〇他者と共によりよく生きる自己の確立について広く課題を発見し，人間の存在や価値，現代の倫理的課題などについて多面的・多角的に考察し，思索を深めようとしている。 〇主体的かつ公正な判断をしようとしている。	〇現代の倫理的課題についての他者と共によりよく生きる在り方を主体的に探究しようとしている。 〇知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けようとしている
C	立高生として初歩的段階	1	〇現代の倫理的課題を捉え，他者と共によりよく生きる人間のあり方について自己の確立の課題として考察している。	〇他者と共によりよく生きる自己の確立について広く課題を発見しようとしている。	〇現代の倫理的課題についての他者と共によりよく生きる在り方を主体的に探究しようとしている。
評価方法			定期考査、振り返り確認問題	ワークシート、課題レポート、定期考査	振り返り、課題レポート
観点別評価			4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する

科目名	政治経済		必修選択 自由選択	使用 教材	『詳述　政治･経済（実教出版）』･『最新図説 政経 2024（浜島書店）』･『入試対策問題集　ステップアップ公共、政治・経済（第一学習社）』
学年 学級	3 年	単位数	２	教科 担当	野口　英法

期　　間		授　　業　　計　　画	到達目標
１ 学 期	中間考査および期末考査まで	※年間を通じて「株式学習ゲーム」を実施する。 〇現代経済のしくみ 　金融のしくみ、財政のしくみなど 〇現代経済と福祉の向上 　経済の停滞と再生、日本の中小企業と農業、国民の暮らし、環境保全と公害防止、労使関係と労働条件の改善など 〇現代の国際経済 　商品･資本の流れと国際収支、国際経済体制の変化、グローバル化と世界金融、地域経済統合と新興国の台頭、地球環境とエネルギー、経済協力と人間開発の課題など	※株式のしくみについて、興味・関心を持って正しく理解するとともに、時事問題と結びつけて考察し、主体的に売買を行うことができる。 〇現代経済のしくみや現代経済と福祉の向上、現代の国際経済について、興味・関心を持って正しく理解するとともに、現実と結びつけて主体的に解決策を考察することができる。
２ 学 期	中間考査および期末考査まで	〇現代の国際経済 　商品･資本の流れと国際収支、国際経済体制の変化、グローバル化と世界金融、地域経済統合と新興国の台頭、地球環境とエネルギー、経済協力と人間開発の課題など 〇現代の国際政治 　国際政治の特質と国際法、国際連合と国際協力、現代国際政治の動向、核兵器と軍縮、国際紛争と難民、国際政治と日本など	〇現代の国際経済や現代の国際政治について、興味・関心を持って正しく理解するとともに、現実と結びつけて主体的に解決策を考察することができる。
１２月以降		〇入試直前演習講座（全領域からの演習問題）	〇総まとめ

学習のポイント（授業中や家庭学習の方法）

メモをとる、仲間と議論する・協働するなど主体的に授業に関わり、考えながら授業に臨んで欲しいと思います。そして、授業以外の場面ではニュースや新聞などを見て、当事者意識を持ちながら社会問題に関心を持ってもらいたいと思います。その上で、疑問に思ったことを自分で調べたり、授業担当者などに聞いて解決すると力がつきます。

ルーブリック評価					
評価の観点			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
立高生として育成したい素養のうち教科で重点的に育成する素養			知識・技能	論理的思考力 批判的に事象を読み解く力	社会に参画しようとする力 粘り強く学習に取り組む力
評価規準			○社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに，諸資料から，社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	○国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して，現実社会に見られる複雑な課題を把握し，説明するとともに，身に付けた判断基準を根拠に構想する力や，構想したことの妥当性や効果，実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して，合意形成や社会参画に向かう力を身に付けている。	○よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に，より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めようとしている。
A	高立生し目指すべき目標	4	○社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて高い次元で理解するとともに，諸資料から，社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を高い次元で身に付けている。	○国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して，現実社会に見られる複雑な課題を高い次元で把握し，説明するとともに，身に付けた判断基準を根拠に構想する力や，構想したことの妥当性や効果，実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して，合意形成や社会参画に向かう力を高い次元で身に付けている。	○よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を高い次元で養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に，より積極的な役割を果たそうとする自覚などを高い次元で深めようとしている。
B	高立生として求める標準	3	○社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて十分理解するとともに，諸資料から，社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を十分身に付けている。	○国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して，現実社会に見られる複雑な課題を十分把握し，説明するとともに，身に付けた判断基準を根拠に構想する力や，構想したことの妥当性や効果，実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して，合意形成や社会参画に向かう力を十分身に付けている。	○よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を十分養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に，より積極的な役割を果たそうとする自覚などを十分深めようとしている。
		2	○社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについてある程度理解するとともに，諸資料から，社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能をある程度身に付けている。	○他国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して，現実社会に見られる複雑な課題をある程度把握し，説明するとともに，身に付けた判断基準を根拠に構想する力や，構想したことの妥当性や効果，実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して，合意形成や社会参画に向かう力をある程度身に付けている。	○よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度をある程度養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に，より積極的な役割を果たそうとする自覚などをある程度深めようとしている。
C	高立生し初歩的段階	1	○社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて最低限理解するとともに，諸資料から，社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を最低限身に付けている。	○国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して，現実社会に見られる複雑な課題を最低限把握し，説明するとともに，身に付けた判断基準を根拠に構想する力や，構想したことの妥当性や効果，実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して，合意形成や社会参画に向かう力を最低限身に付けている。	○よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を最低限養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に，より積極的な役割を果たそうとする自覚などを最低限深めようとしている。
評価方法			定期考査、プリント提出	定期考査、プリント提出	プリント提出、出席状況
観点別評価			4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する	4段階で評価し、最終的にA,B.Cで記載する